

2005年9月16日

各位

『ベルメゾン生活スタイル研究所 スタイルモニターレポート Vol.2』

20-50代女性 1523人に「懐かしさ」について聞きました。

あなたにとって一番懐かしさを感じるものは何ですか。

1位:音・音楽 42.5% 2位:場所・土地 30.1% 3位:モノ 15.3%

株式会社千趣会(本社 大阪市、代表取締役社長 行待 裕弘)が運営するベルメゾン生活スタイル研究所では、女性の生活スタイルや意識についての調査を随時行っております。

さて、このところ一度解散したバンドが再結成したり、一昔前に大ブームを巻き起こした玩具が戻ってきたりと、大人には懐かしい、若者には新しい、そんな復権・復活の波が押し寄せてきています。そこで今回は、復権や復活ブームの裏側にある「心の奥で感じる懐かしさ」について、当研究所のスタイルモニター1523人に聞きました。

いちばん懐かしさを感じるのは、「音・音楽」

あなたにとって一番懐かしさを感じるものは何ですか。という質問に対して最も多かった答えが「音・音楽」で42.5%、次いで「場所・土地」が30.1%、「モノ」が15.3%という結果になりました。「昔の曲がラジオとかでふいに流れてくると、その曲を聴いていた風景が蘇ります。(23歳 会社員)」「やっぱり音楽がいちばん郷愁を感じます。懐かしい曲が流れると当時の記憶が湧き上がってきて、感情までが蘇る気がします。(43歳 専業主婦)」など、全世代にわたって音や音楽とその時代の記憶や思い出は深く結びついていることが改めてわかりました。

いちばん懐かしさを感じる時代は、「小学校時代」

あなたにとって一番懐かしいと思える時代はいつ頃ですか。という質問では、どの年代においても一位は「小学校時代」で31.4%。何も考えずに子供でいられた。遊んでばかりでいて楽しかった。という意見が多数を占めています。次に多かったのは「高校時代」で25.1%、3番目は「中学校時代」の20.4%でした。中学・高校時代を選んだ方の理由では、よく遊び、よく学び何事にも一生懸命生きていたからという回答が多く、前向きに積極的に学生時代を過ごした思い出が懐かしさを醸成しているようです。

私にとっての懐かしさとは.....

私にとっての懐かしさとは である。という質問では、「胸を熱くしてくれるもの(22歳 学生)」「幸せの証(21歳 会社員)」「これから頑張るための活力(24歳 会社員)」「疲れたときに食する甘いお菓子の様なもの(32歳 会社員)」「今の幸せを改めて感じる事ができるもの(42歳 会社員)」など、「懐かしさ=元気の素」そんな姿が浮かびあがってきました。懐かしい音楽を聴くことで、懐かしい場所を訪ねることで、懐かしい友達と久しぶりで会うことで、私たちは自然に元気を取り戻し、疲れた心を癒してまた再出発する。懐かしさには、そんな魔力が潜んでいるようです。

なお、今回の調査結果について詳しくはベルメゾン生活スタイル研究所ホームページ www.belle-style.com をご覧ください。

調査の方法：ベルメゾン生活スタイル研究所のスタイルモニターバンクに登録している20～59歳の全国の女性で有効回答数は1523人。インターネットを使って2005年8月31日～9月5日に実施した。

本件に関する問い合わせ先
ベルメゾン生活スタイル研究所 坂本典子 (<mailto:n-sakamoto@senshukai.co.jp>)
〒530-0035 大阪市北区同心 1-6-23 TEL : 06-6881-3043 FAX : 06-6352-9286